

今年度3回目のワークショップ結果を紹介！

2025(令和7)年
2月20日(木)実施

これまでの意見をもとに、宮の沢の未来をもっとワクワクするものにするための方向性やアイデアを考えました。宮の沢は、観光客などの「来街者」も多く訪れる場所です。そこで、今回は「来街者」の視点も踏まえて、今後のまちづくりについて意見交換を行いました。



“来街者”も楽しめるまちに
していくため、
特に大事なキーワード

“来街者”の視点も踏まえた取組のアイデア

●：アイデア ●：配慮すること

住環境・コミュニティ・景観
(住まい、町内会、
景色、街並み など)

- ：観光客や来街者が来ると、まちが活気づく。若い世代を呼び込みたい。
- ：閑静な住宅地もあるため、来街者が増えてオーバーツーリズムは避けたい。
- ：地域住民が日常的に利用する動線(人やものの動き)と、来街者の動線を分ける工夫はどうか。
- ：宮の沢ふれあい公園などから見る山並みが、自然との近さを感じさせる。住民も来街者も山並みが見えた方が良いので、眺望を守る必要がある。

水とみどり
(河川や公園、
街路樹などの樹木 など)

- ：中の川や旧中の川(川沿いの桜)、中の川公園など川沿いを散策できると良い。中の川の上流にある上追分川などもお勧め。
- ：地域をよく知るガイドが必要ではないか。宮の沢は自然が近く空気も良いので、自然景観や親水を楽しみながら歩けるガイドツアーができると良いのではないかな。

ウォーカブル
(歩きやすさ、公共空間の活用、
沿道の賑わい など)

- ：白い恋人パークは、宮の沢最大の観光交流施設である。ここに来る・来た来街者に楽しく歩く仕掛けが必要である。また、他の施設や資源へ誘導したい。
- ：コンサふれあい通、北5条・手稲通(道道124号)、西野屯田通、宮の沢一条通、ラベンダー通がウォーカブルの軸になりそう。
- ：宮の沢ふれあい公園、ちえりあ前広場とアトリウム、中の川公園、白い恋人パーク、手稲記念館のほかに、民間の駐車場なども含めた屋内外のオープンスペースを活用して、滞留と観光客も参加できる賑わいをつくる。
- ：地域の町内会館も利用すると、住民と観光客のふれあいにもなる。
- ：宮の沢一条通は送迎する車、バス、トラックが通るため、地域の子どもや来街者も安全に歩けるようになると良い。
- ：白い恋人パーク、北5条・手稲通(道道124号)、宮の沢一条通、ラベンダー通を花と緑、フラッグなどでつないで、地下鉄駅から歩きたくするようにする。
- ：道路や広場、施設の壁などを活用したアートの仕掛けで、歩きたくするようにする。
- ：白い恋人パークや公園・広場を使ったイベントがある日は、周辺の施設やお店でもイベントを行って一体的な回遊性をつくる。(例：ちえりあを通過して白い恋人パークに来た観光客を、上手稲神社、宮丘公園まで誘導する)
- ：地下鉄改札のコンコースや動く歩道など、地下空間もうまく使っていくはどうか。

エリアマネジメント
(地域住民等による様々な活動)

- ：地域住民(子どもから高齢の方まで)、地域の企業や団体、学生などとも連携してウォーカブルや賑わいのコンテンツをつくると良い。
- ：コンテンツを楽しみたい観光客の他に、一緒に企画をしたいと思う地域外の人々も呼び込むことができるかもしれない。

情報発信
(SNSや観光PR など)

- ：地下鉄を出た後に案内サイン、デジタルサイネージなど現地での案内情報が充実されると良い。
- ：地域の魅力マップ、散策ルート、サイクリングルート、歩きながら楽しめる視覚情報(キロポストやアートなど)があると良い。